



一致の鍵

暗唱 聖句

「秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです」(エフェソ1:9、10、新共同訳)

「御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さったのである。それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである」(エペソ1:9、10、口語訳)

今週の 聖句

エフェソ1:3～14、ガラテヤ4:7、エフェソ2:11～22、4:1～6、11、
マタイ20:25～28、エフェソ5:15～6:9

安息日 午後

10/20

今週のテーマ

エフェソは、小アジアにおける商業と影響力の主要な中心でした。そのエフェソの教会は、ユダヤ人、異邦人、あらゆる社会的地位の人々から成り立っていました。かくも多様であった教会員は、彼らが住む世の中と同様、対立しがちだったのかもしれませんが。もしキリストと、その体の部分として彼にある一致がなかったとしたら……。そういうわけで、キリストに従う者たちの一致に対するパウロの関心が、エフェソの信徒への手紙の中心テーマになっています。

パウロの一致の概念には、二つの側面があります。一つは教会における一致であり、教会にはユダヤ人と異邦人がキリストという一つの体に集められています。もう一つは宇宙における一致であり、天と地にあるすべてのものは、キリストにおける究極の一致を宇宙の中に見いだすのです。

このような一致の源はキリストです。「キリストにおいて」とか、「キリストと共に」とかいうパウロの表現は、この書簡の中で何回も使われています。それは、神がイエス・キリストの生涯、死、復活によって私たちや宇宙のために成し遂げてくださったことを示すためです。救済計画における神の最終的な目的は、キリストによってすべてのものを再統合することです。このような統合は、世の終わりになってようやく完全に明らかになるでしょう。

エフェソ1:3～14を読んでください。イエスに従う者たちは、神をほめたたえることがたくさんあります。キリストにおいて、神は私たちが養子とすることを選び、この世に神を示されました。パウロは、キリストにある私たちと神との新しい関係を説明するために、多くのたとえを用いています。それらのたとえの中で養子縁組のたとえは、一致という今期のガイドの主題を扱っています。キリストにおいて、私たちは養子とされ、神の家族になりました。この家族のたとえは、イスラエルの子らと神との契約も指しています。パウロの書簡の文脈においては、イエスをメシアとして受け入れた異邦人も神の子らであり、イスラエルになされた約束の相続者（ロマ8:17、ガラ4:7）なのです。キリストとこのような関係にあるという恩恵、つまりキリストにあることが、クリスチャンのあらゆる一致の基礎です。先の聖書の箇所はまた、キリストにおいて全人類を再統合することが当初からの神の願いであった、と述べています。そして神の家族の中では、私たちはみな神の子らであり、平等に愛され、大切にされているのです。

この箇所の中に、「前もって定められた」（エフェ1:5、11参照）という表現を見て、困惑する人たちがいます。救われるように神が私たちを選ばれたという約束は、滅びるように神がある人たちを選ばれたということを暗に意味しているように思えるからです。しかし、それは聖書の教えではありません。むしろ神は、すべての人が救われうるように、この世が創造される前に救済計画を準備なさいました。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハ3:16、さらにIテモ2:6、IIペト3:9も参照）。神は、だれが救いの提供を受け入れるかを前もってご存じですが、それはだれかの決断をあらかじめ定めることと同じではありません。キリストが私たちのために成し遂げてくださったことのゆえに、救いはすべての人に提供されています。問題は、いかに私たちがその提供に応じるかです。神はだれかを救うために強制力を用いたりなさいません。

「天の会議にて、人間が、罪人であるにもかかわらず、その不従順によって滅びることなく、彼らの身代わりであり、保証であるキリストへの信仰によって、神の選ばれた者となれる準備がされた。神は、イエス・キリストによって御自分の子にしようと、御心のままに前もってお定めになった。神は、すべての人が救われるように望んでおられる。なぜなら、人間の負債を支払うために独り子を与えることによって、多くの準備がなされたからである。滅びる者が滅びるのは、キリスト・イエスによって神の子として養子になることを拒むからである」（『SDA聖書註解』第6巻1114ページ、英文）。

人々の中の最も深刻な仲違いのいくつかは、人種、民族、宗教の違いに起因します。多くの社会において、身分証には、その人が属する民族や宗教が記されており、その違いは、人々が日々受け入れて生きざるをえない特権や制約と結びついています。戦争や対立が起きるとき、こういった身分の指標や違いが、抑圧や暴力のきっかけになるものです。

エフェソ2:11～22において、パウロは、クリスチャン共同体にとってのより良い方法を示しています。キリストにおける私たちの一致は、私たちの違いに影響を及ぼします。パウロは、キリストにある神の恵みを受け入れる前の人生がどのようなものであったかを思い出しなさい、とエフェソの信徒に勧めています。民族的、文化的、宗教的違いは、人々の集団の間に敵意や対立を生み出しました。しかし感謝すべきことに、私たちはキリストにおいて、共通の救い主、共通の主を持つ一つの民です。私たちはみな、神の民に属しています。「しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです」(エフェ2:13)。

エルサレムの昔の神殿には、ユダヤ人だけが入れる場所を区別するために、隔ての壁がありました。そしてこの壁には、異邦人はこれ以上先に行くことを禁じる(行けば死刑に処す)、と記されていました。パウロが宣教旅行のあと、この神殿に入ったときに破ったと非難されたのは、まさにこの規則でした。逮捕されたときに彼は、トロフィモというエフェソ出身の人(使徒21:29)を神殿のユダヤ人専用の場所に連れ込んだ、と訴えられました。パウロはこの書簡の中で、「キリストはわたしたちの平和であります。二つのもの〔民族〕を一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊(されました)」(エフェ2:14)と論じています。

キリストにおいて、信者はアブラハムの子孫であり、心に割礼を受けます。神がアブラハムにお与えになった肉体の割礼は、信者がキリストにおいて受ける霊的な割礼を指し示していました(申10:16参照)。「あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨てるキリストの割礼を受け(た)」(コロ2:11)のです。

◆ エフェソ2:11～22を読み直してください。パウロがここで記したことの現実を、私たちは自分の所属教会の中でいかに目にしますか。今もなお、どのような課題がありますか。

エフェソの人々への靈感を受けたパウロの言葉は实际的です。ユダヤ人と異邦人の間、つまり異なる文化的、民族的背景を持つ人々の間に存在する一致は、神話でも、単なる論理的な構成概念でもありません。それは、「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み（なさい）」（エフェ4：1）と私たちに要求する現実なのです。

エフェソ4：1～3を読んでください。クリスチャン生活におけるこのような徳や恵みの実際的な結果は、「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つ」（エフェ4：3）のに助けとなります。このような性質はいずれも、愛に根差しています（Iコリ13：1～7）。能動的な愛の実践は、兄弟姉妹の人間関係を守り、クリスチャン共同体などにおける平和と一致を促進します。教会における一致は、ほかの人たちが目にするのできる特別な形で神の愛をあらわすのです。教会は、特に争い、仲違い、戦争などの時に、そのようなあかしをするようにと召されています。

エフェソ4：4～6を読んでください。この章の最初の数節において、パウロは教会の一致に対する彼の深い関心を示します。彼は一致を勧めることから始め（エフェ4：1～3）、続いて、信者を結びつける七つの要素を列挙しています（同4：4～6）。一致は、信者がすでに持っているものであると同時に（同）、それは絶えず働かせ、維持しなければならないもの（同4：1～3）、私たちが目指す未来の目標でもあるのです（同4：13）。

「使徒は兄弟たちに、彼が彼らに伝えた真理の力を自らの生活であらわすようにと勧める。優しさと心の広さ、忍耐と愛によって、彼らはキリストの御品性とキリストの救いの祝福を体現すべきであった。体は一つ、霊は一つ、主は1人、信仰は一つである。キリストの体の部分として、すべての信者は同じ霊と同じ希望によって駆り立てられる。教会における分裂は、この世の前でキリストの宗教を侮辱し、真理の敵に彼らの行動を正当化する機会を与えてしまう。パウロの教えは、当時の教会のためだけに書かれたのではない。平和の絆の中的一致を守るために、私たちは何をしているだろうか」（『教会への証』第5巻239ページ、英文）。

◆ あなたが「(神の) 招きにふさわしく歩(んで)」いると確信するために、今すぐに、どのような選択をすることができますか。

「しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」(エフェ 4:7)。救いは、それを受け取ろうとするすべての人に与えられる賜物ですが、霊的な賜物の中には、特別な目的のために特定の人にしか与えられないものがあります。エフェソ 4:11 を読んでください。

問1 エフェソ 4:12 によれば、特別な指導の賜物を教会に与える神の目的は何ですか。これらの賜物は、どのように関連し合っていますか。

すべてのクリスチャンは、ある意味において、伝道者であり、神と福音に仕える者です。マタイ 28:19、20 におけるキリストの命令は、行って、すべての民を弟子にし、バプテスマを授け、教えるよう、すべてのクリスチャンに与えられています。伝道の働きは、牧師や伝道者など、少数の特権を持つ者たちにだけ与えられているのではなく、キリストの名を持つすべての人に与えられています。だれも福音を広める働きから除外を求めることはできませんし、教会のどの指導者も伝道の働きを独占していると主張することはできません。指導の霊的な賜物は、具体的に言えば、教会を造り上げるためのものです。教会の指導者は、一致を育み、促し、勧めるために必要とされているのです。

指導の賜物に関するパウロのリストは、これらの役割が、迷える人々に接触する能力を神の民に身につけさせることでもであると教えています。ほかの人たちがキリストのための働きや奉仕を実行できるように助けること、また「わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」(エフェ 4:13) ように、キリストの体を造り上げる助けをすることは、教会内で特別に召された人たちの責任です。イエスの指導の仕方の模範が、私たちの伝道の仕方の指針とならねばなりません。イエスは他者に仕えるために来られたのであって、仕えられるためではありませんでした(マタ 20:25～28)。私たちは行って、同じようにしなければなりません。

人間には、人に頼らず、だれに対しても責任を負わないという強い傾向があります。特に、西洋社会ではこの傾向がはびこっています。しかしパウロは、いずれのクリスチャンもこの世において独りでないこと、また私たちが共通の旅において励まし合うための(霊的指導者がいる)信仰の共同体を形成していることを思い出させてくれます。私たちは、全員がキリストの体の部分なのです。

◆ あなたはどのような霊的な賜物を持っていますか。あなたは所属教会の一致のために、どのように用いていますか。

キリスト教は、(人と神、人と人との) 関係の宗教です。ほかの人との関係に影響を及ぼすような神との関係がないのに、神と深い関係を持っていると主張することは、つじつまが合いません。キリスト教は、他と関わりを持たずに存在することができません。エフェソの信徒への手紙の中でパウロが論じている一致の原則は、私たちの他者との関わり方にも当てはまります。

問2 エフェソ5:15～21を読んでください。21節で、パウロは何と言っていますか。仕えることと一致の間には、どのような関係がありますか。

互いに仕え合いなさいというパウロの勧めは、エフェソ5:18の「霊に満たされ」という句とつながりがあります。“霊”に満たされることのあらわれの一つが、互いに仕え合うことなのです。これは、私たちが人々に対して持つべき謙虚さと思慮深さという適切な態度を指しています。言うまでもなく、それは大抵の人の生まれながらの性質ではなく、私たちの心に“霊”が住んでおられることの結果です。そしてそれは、キリストにおける一致の絆であられる同じ“霊”の賜物なのです。このような視点から見ると、仕えることは、キリストに対する敬意と、私たちのための彼の犠牲に対する敬意をあらわす内面的性質なのです。

エフェソ5:22～6:9を読んでください。ある程度、教会における一致は、家庭における一致によって決まります。パウロは、夫婦の間に存在すべき一致、愛、尊敬が、教会に対するキリストの愛、つまり自己犠牲の愛を体現すべきである、と強調しました。それゆえ、家庭においても、教会においても、キリストのような尊敬が夫婦や教会員に求められます。このキリストのような特質は、親と子ども、雇用者と被雇用者(主人と奴隷)の間でも体現されるべきです。私たちの家庭に行き渡るべき調和と平安とが、私たちの教会生活にも行き渡らねばなりません。

◆ きょうの聖句の中から、(あなたの状況に応じて) 家族や同僚に対していかに振る舞うべきかをよりよく理解するのに役立つどんな原則を、あなたは得ることができますか。

「キリストは、国や階級や信条の相違をお認めにならなかった。学者やファリサイ人は、天の賜物を一国民に限られた特権とし、世界の各地にいる神の他の家族を除外しようとした。しかしキリストは、一切の隔ての壁を壊すためにおいでになった。彼は、神の憐れみと愛の賜物が、空気や光や、また地を爽快にする雨のように、制限されるべきでないことを示すために、おいでになったのである。

キリストの生涯によって、階級に差別のない宗教が確立された。それはユダヤ人も異邦人も自由人も奴隷も、同じ兄弟として結びつけ、神の前に平等にする宗教であった。どんな社会政策も、彼の運動に影響を及ぼすことはできなかった。彼は隣人も旅人も、友も敵も区別なさらなかった。彼の心を引き付けるものは、生命の水に飢え渴く魂であった」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』22ページ)。

話し合いのための質問

- ① 一致の問題の中核を成すのは、謙虚さと従順な態度の必要性です。こういった特性がなければ、どうして教会の中に一致が存在しえるのでしょうか。もし私たちが高慢で、自分の見解や立場に自信があり、ほかの人に耳を傾けようとしなければ、一致することはできません。どうしたら私たちは、この謙虚さと従順な態度を身につけることができるのでしょうか。
- ② 私たちが必ずしもすべてのことにおいて意見が合わないときでも、どうしたら一致することができるのでしょうか。

まとめ

パウロはエフェソの信徒への手紙の中で、クリスチャンにとって「キリストにある」ということが何を意味するのかということについて、多くの助言を与えています。イエスによる救いは、私たちの人生を実際的な形で変えます。教会の兄弟姉妹との関係を含む、私たちのあらゆる人間関係は、私たちの生活の中におけるキリストの力によって変えられます。そして、私たちが一致するためには、このような変化が不可欠なのです。